

Title	ヴフテマスのデザイン教育（1）：もう一つの「労働者クラブ」
Author(s)	谷本, 尚子
Citation	デザイン理論. 2012, 59, p. 82-83
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/53561
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

ヴフテマスのデザイン教育（1） — もう一つの「労働者クラブ」 — 谷本尚子／大阪人間科学大学

1. はじめに

今回の発表では、革命後間もなくモスクワに設立されたヴフテマス（Вхутемас, 1920-27）及びヴフテイン（Вхутейн, 1926-30）の家具及びインテリアデザインについて取り上げ、新生ソ連邦のデザイン教育の実践とその理論的背景となったロシア構成主義の理論の展開について考察した。その際、注目したのが、ヴフテマスの予備課程で「ヴォリューム」コースを担当し、インテリアデザイン教育に携わった A. M. ラヴィンスキー（Антон Михайлович Лавинский, 1893-1968）である。彼に注目した理由は、ロシア構成主義の作品として西側諸国に強い印象を与えた1925年のパリ万国博に、A. M. ロトチェンコの労働者クラブのインテリアデザインと並んでラヴィンスキーの学生による労働者クラブのデザインが含まれていたからである。

2. ヴフテマスのデザイン教育について

2-1 ヴフテマスの変遷

1920年設立当初のヴフテマスでは、建築、絵画、彫刻学科、それぞれの学科内部で基礎教育が行われていたⁱ。しかし1922年の春、インフクのメンバーが予備課程の内容に新たな試みを始める。絵画教育は「色彩」に、デッサンは「グラフィック」に、彫刻は「ヴォリューム」に変えられ、さらに「空間」が加えられ、4つのプログラムが呈示された。1923年からは、予備課程が独立した一つの組織として全ての学生が2年間学ぶ必須コースとなり、26年には再び専門課程に統合され、履修期間は1年となった。1929年に閉

鎖されるまで、殆どの新生が建築学科を専攻するために「空間」コースを選択した。

木工や金工学科としてあったデザインに関連する学科を選択する学生は、意外なほど少ない。1924年の終わりに、予備課程を修了した学生は242人であったが、その内木工学科に進んだのは22人、金工学科は17人であった。1930年にヴフテインを閉じる時点では、木工学科の学生は31人であり、金工学科の学生は、16人の卒業生と7人の在生がいただけだった。

2-2 予備課程「ヴォリューム」におけるラヴィンスキー

ラヴィンスキーは、彫刻家、建築物や舞台の設計者、印刷デザイナーであり、特に産業芸術の理論家として活躍した構成主義者である。バクー工業大学で建築を学んだ後、ペトログラードの彫刻家 L. シェルヴドに師事する。2年間の従軍後、18年にペトログラードに戻り、その後しばらく具象的なモニュメント等を制作していたが、1920年の夏にモスクワで芸術学生の会議に参加したのを機会に前衛芸術のグループと関わり始める。

モスクワではインフクのメンバーと接触し、客観的分析のワーキンググループの論争に関わった。同年、B. D. コロリョフ（1845-1963）と共にヴフテマスに赴任し、彫刻学科と予備課程の「ヴォリューム」コースを担当したⁱⁱ。

「ヴォリューム」コースでは、幾何学形態が相互に組み合わさった抽象彫刻が試みられており、当時の構成主義の彫刻がキュビズムの系統にあったと見ることが出来る。

2-3 木工学科 / デルファク (Дерфак)

ヴフテマスの家具工房であるデルファクは、最初、ストロガノフ芸術学校の木造建築と木彫の教員が集められ設立された。従って初期には芸術学校時代の伝統的な木彫工芸の性質を受け継ぎ、熟練の技を学ぶ教育が行われていた。ラヴィンスキーとコロリョフが赴任した事で、大量機械生産の原則が導入された。学生達は、図書館や簡易宿泊所などの公共の施設、駅や車両などの輸送施設等のための家具や内装をデザインすることが出来るように訓練された。

2-4 ロトチェンコの構成教育と金工学科メトファク (Метфак)

メトファクも又、ストロガノフ芸術学校の宝飾工房を引き継いで設立されたが、1922年以降、ロトチェンコによる構成主義の造形指導と技術者マリシェフスキーによる技術指導が行われるようになり、大きく変化した。

メトファクの目標は、「機能性と丈夫さと美しさを兼ね備えた日用品をデザイン」する「芸術家=建設者」を養成しなければならないとされたⁱⁱⁱ。ロトチェンコの構成教育は、学生達に臨機応変に対処し、創意に富んだ主導的な展開へと繋がることを期待するものであった。

3. 1925年展の「労働者クラブ」について

1925年のパリ万博では、ラヴィンスキーの指導によるデルファクの学生達による労働者クラブのデザインもまた、展示された。クラブ内で使われる家具は可動式の折りたたみ式の物が多く、内装は可動式の壁で必要に応じて二つに分けることが出来た。ここで注目したいのは、これらの家具の構造支持部が恐らく金属パイプを使っていたと考えられる点である。

ロトチェンコによる労働者クラブのデザインが、共有空間の意匠性を重視した、造形的に新しい種類のデザインを提示していたのに対して、デルファクのデザインは実用性と生産性を優先的に考えていたといえる。

4. 木工・金工学科 / デルメトファク (Дерметфак, 1926-30) の機能主義 デザイン

デルメトファクは、工芸デザインの要素が強かったヴフテマスが、共産党中央委員会の圧力によって有用な機能主義的デザインを学ぶ学校へと体質を変え、ヴフテインと改称した過程で設立された新学科であった。

デルメトファクの家具デザインの第一の特徴は、鋼管を用いたという生産性への配慮だけでなく、徹底した部材の標準化によるシステムティックな思考に見ることが出来る。

5. おわりに

ヴフテマスの教育実践の一端を見る事で、構成主義のプログラムが“新しい社会の内容に応える新しい形式に至る途の模索”に修正されていった過程を見る事が出来た。これは実際の経験が理論的ベースの修正に繋がった稀有な例であろう。それは鋼管を用いた家具というバウハウスデザインとの共通項を持ちながらも、社会的背景の違いから、より独自の、興味深い成果を残したと言えるだろう。

i S. Khan-Magomedov, *VHUTEMAS Moscow 1920-1930*, Editions du Regard, 1990, p. 15.

ii Cf. Y. Kovtun, *Avant-Garde Art in Russia, 1920-1930, Schools and Movements*, Parkstone Aurora, 1996, p. 225.

iii Cf. Chistina Lodder, *Russian Constructivism*, Yale University Press, 1983, p. 133.